

【刊日一十月三】刊日



加郵 郵 金月ケ 金部 金部 金部
 銀 5 金 行 1 語 字 2 1 號 5 料 告 廣
 刊 休 日 祭 の 日 祭 曜 日
 活 文 崎 川 人 刷 印 人 編 行 發
 五 三 町 橋 長 町 平 郡 城 石 縣 島 福
 番 〇 三 六 話 電 社 開 新 日 每 警 常 所 行 發
 社 會 式 株 刷 印 日 每 警 常 所 刷 印

無言と眞言

眞繼雲山

下手な演説師は長講を以て尊しと心得てゐる、猶し田舎新聞記者が、文の長きを以てエラシとするにちか、共に對手を悩ますの甚しといふべく、一時間の説教の目的を五分にして達し得ば更に雄辯であり、若し無言にしてその目的が完成するものなら重寶これに過ぎたへはない、鶏はコケコッコウにて一切を解決し鳥はカア／＼にて世を渡り以て何の不足を訴ふること無し、然るを萬物の靈長様が、壇上に汗ダクになり滔々懸河の辯を振ひても尚ほ且つ天下不如意を嘆ずるとは、さて、難澁なるかな、禪には一字不説立文字とあり、言説文字に現はれたものは既に第二義でありとし第一義諦は離言絶慮といふはそも、何の意か、按づるに文字も言説も、眞實そのものを表現せんとする或る條件附の形式に外ならずして眞實そのものではない、眞ならざるものを眞實といふことは出来ぬ、第

一義諦とは眞そのものをいふこれを知るが悟りである維摩經の方丈會座に於て三十三菩薩が各自の悟りの心もちを述べた、卅二人目の文珠は「言葉でいふことは駄目だ」といふたが、卅三人目の維摩は黙然として一語をも發しなかつた、一黙如雷是れ眞に入不二法門といふべしである。禪には「冷暖自知」とあり暑い寒いは説明を聞いて成る程と合点することではなく、誰に教へてもらはなくても冷熱は言説を要せずしてチャンと分つてゐる、それが分らぬ木石には、百千萬言を説いてもその眞際は通じない、戀と戀との眼が口ほどに物を言ふのは、靈犀一点の相通するによるからで、秋波の一瞥が千萬語のよく及ぶところでないのは諸君も先刻御承知のことである。眞言宗に至りては必ずしも然らず、聲字即實相と談じて語密を重んずるが、これは必ずしも文士や講釋が飯の種に聲字を弄し、政治家が名利のために大法螺を吹くことを眞なりと保證した意味ではなく、大日如來

が自内證の法門を説き給ふた眞實の語言を眞言と約し移して宗名となしたものであり、畢竟無言と眞言とは同一境地に外ならず、多言は無言の眞なるに如かぬ。

美味! 芳醇! 宗正らひた

山崎合名會社 電話一〇番

耳鼻咽喉科専門 大和田醫院 平町南町 電話一七〇

第一スピーカ 現出一タスエフカ

本當に感じのいい一九三一年型のカフエー! スター! が生れました。皆様の御引立を偏に御願申上ます。味覺の殿堂 出前迅速電話を御利用下さい 女給募集 平町南町電話一六七一番 向部車動自澤芹

貸家

二階建(上八下、六、六、四半) 公園下高臺にて夏涼しく冬暖かい 住心地、眺め共に良い住宅 御望みの方は左記へ御相談下さい 全部修善致しました 平町南町

芹澤材木店 電話四七番

設備萬端を整えて タイヤラ披露撞球競技大會 期日來る十一月八日午後一時(日曜日) 會費五拾錢 權利十本(夕食付) 競技方法一人撞初キユー突切三掛法 余興……カッパ戦トーナメント式 是非御出席願ひます 平町仲田町(電話四六五番) 平撞球場 (マルト撞球場改メ)

器灸温ムウチラ 表價定 賣販約特 部理代卸 部療 部産 産婆 關口 悦子 志賀齒科醫院 福島縣平町五ノ廿八 福島縣平町白銀町九

醫學博士名推獎 胃腸病 婦人病 其他の慢性諸症 肥り度い人の福音 熱くなく痕つかず無煙式 家庭治療器 誰にも出来る理想的 産名城磐 鹽から 鰹節と 魚問屋 志賀盛榮 最優最大日本生命平代理店 平四丁目電二二三番

時計の 修繕なら 半額 平驛前通り 星野時計店へ 時計、眼鏡廉賣店 箱子入無料券進呈

池田内務の整理案

本郡へ大衝動

神谷の農試分場及び小名濱測候所廢止

目下池田内務部長を中心に編成中の本縣明年年度豫算は刻下の財界状態から極度の歳入減を豫想され殊に自由費の如きは本年度當初豫算に比し殆んど三割減の窮境に陥入るものとみられて

が此の時に當り縣當局では自由費節減のため各方面の整理改廢を斷行するの止むなきに至つた模様で傳へられる所によると内務部長の査定中廢止と決定した中に本郡關係のもので

縣農事試験場石城分場及小名濱測候所出張所廢止の二項が含まれてゐるため各方面に一大衝動を興へたが地元では早くも之が猛烈な反對運動を起すものとみ

られてゐる一方縣當局としても川崎知事が之に對して如何なる

裁斷を下すのか注目されてゐるので果して廢止が實現するか否かが判然するの今後幾多の曲折を経るの事であらうとみられてゐる

既報平署全管内消防組頭會議は昨日午前十時より平署會議室に開催先づ石城消防協會の委員改選を行ひ互選の結果左の七名が當選した

石城消防協會新委員
△井上茂作(平) △若松惣太郎(磐崎) △加澤一造(江名) △鈴木喜太郎(高久) △草野正壽(上小川) △叶多(清(好間)) △阿部雄平(永戸)

尚當日の協議事項及び平署の指示事項は次の如くである

△石城消防協會會則施行細則制定の件
△會則第八條に依る委員互選の件
△秋期消防檢閲に關する件
△健康増進實施に關する件
△指示事項
△少年消防組織獎勵の件
△消防組員任免選叙に關する件
△服裝改正の件
△林野火災豫防に關する件
△秋山の澄みたる姿及びしとぞ見し(秋水)

岩を噛む奔流が滾々とひいて、そのあたりは夕冷えを感じる、あす日曜に展げる紅葉狩風景は、入り目を惜しむ人たちが溪谷のそこかしこに群れあつたう、だが、川前驛三時十五分發の汽車には、もう間もない、彼と彼女は一時間の歸り散歩をもつべく立上つたのだ

秋十月——漫珠沙華が咲いて、やがてもみぢの中に眠る月だ、街のかげらの近代散歩は各種各様に限りなく續けられる……そして、ちろん戀の散歩も……

「Qu'elle heure est-il?」「Doux heure!」

およそ最もふさはしくな

「どこまで?」

「ちや、おいていく」

「構はない、……でもお

つてあげて」

「どこまで?」

「ちや、おいていく」

「構はない、……でもお

つてあげて」

「どこまで?」

「ちや、おいていく」

「構はない、……でもお

つてあげて」

「どこまで?」

「ちや、おいていく」

「構はない、……でもお

木兼吉の三氏は野崎縣議の案内にて卅日水産課に出頭縣費補助交付につき陳情したが同村の計畫によると工費總額二十万圓で半額縣費補助を受け地元では先に漁業組合が借入れた低利資金三万五千圓、同組合基本金

二万圓、同村大字豊間區の寄附金一万五千圓、同村寄附金一万圓以上八万圓の手持ち現金と漁業権を抵當に借入れる二万圓計十萬圓を以て地元負擔を補充せんとするものである

既報平署全管内消防組頭會議は昨日午前十時より平署會議室に開催先づ石城消防協會の委員改選を行ひ互選の結果左の七名が當選した

石城消防協會新委員
△井上茂作(平) △若松惣太郎(磐崎) △加澤一造(江名) △鈴木喜太郎(高久) △草野正壽(上小川) △叶多(清(好間)) △阿部雄平(永戸)

尚當日の協議事項及び平署の指示事項は次の如くである

△石城消防協會會則施行細則制定の件
△會則第八條に依る委員互選の件
△秋期消防檢閲に關する件
△健康増進實施に關する件
△指示事項
△少年消防組織獎勵の件
△消防組員任免選叙に關する件
△服裝改正の件
△林野火災豫防に關する件
△秋山の澄みたる姿及びしとぞ見し(秋水)

岩を噛む奔流が滾々とひいて、そのあたりは夕冷えを感じる、あす日曜に展げる紅葉狩風景は、入り目を惜しむ人たちが溪谷のそこかしこに群れあつたう、だが、川前驛三時十五分發の汽車には、もう間もない、彼と彼女は一時間の歸り散歩をもつべく立上つたのだ

秋十月——漫珠沙華が咲いて、やがてもみぢの中に眠る月だ、街のかげらの近代散歩は各種各様に限りなく續けられる……そして、ちろん戀の散歩も……

「Qu'elle heure est-il?」「Doux heure!」

およそ最もふさはしくな

「どこまで?」

「ちや、おいていく」

「構はない、……でもお

つてあげて」

「どこまで?」

「ちや、おいていく」

「構はない、……でもお

つてあげて」

「どこまで?」

「ちや、おいていく」

「構はない、……でもお

つてあげて」

「どこまで?」

「ちや、おいていく」

「構はない、……でもお

つてあげて」

「どこまで?」

「ちや、おいていく」

「構はない、……でもお

つてあげて」

「どこまで?」

「ちや、おいていく」

「構はない、……でもお

つてあげて」

は開始され四月から十月に到る七ヶ月分は納付する運びとなつてゐるが未だに縣の方針即ち請負か個人納めか決定せず困つてゐる町ではこれがため五千二百餘圓からの附加税がとれないので収入難の折柄としてこれも大困りである

洋灰販賣協會
菊田方部設置
植田、勿來の菊田方部セメント販賣業者は現下の不況に對し販賣價格を協定し營業の合理化を圖る目的をもつて今回同方部セメント販賣協會を設置し會長は横山定孝氏が選任された

三等局設置運動
石城郡高久村では此程同村に三等郵便局設置方を運動することになり村長鈴木喜太郎氏等連署にて仙臺遞信局へ陳情書を提出した

事變地通信
南滿洲奉天駐劄步兵第廿九聯隊
平南町出身 佐藤武

昨日は和歌山縣の師範附屬小學生から兵士達一人に一封宛手紙が來ました、表記は忠義な忠義な強い満洲の兵隊様と書いてあり中を見れば實に適切な

小供の心
が現れて居りまして強者達は大騒ぎで返事の中に寫入

平町人事
△南町一四 秋元政光氏次男利之
△平町鎌田五二 高橋實治(三四)東
白川郡竹貫村八二 森ノエ(一八)

除隊話等
致す者はありませぬ、事變前日迄は今日過ぎれば等と除隊の日を待つて居た二年兵も毎日毎夜小數の人員にて多くの勤務に服しイヤな顔一つ見せず初年兵と區別なく何事をも忘れて一生懸命働いて居ります(後略)

月十秋
もみぢに眠る
朗らかな散歩に
溪谷へゆく人々

「どこまで?」

「ちや、おいていく」

「構はない、……でもお

つてあげて」

「どこまで?」

「ちや、おいていく」

「構はない、……でもお

つてあげて」

「どこまで?」

「ちや、おいていく」

「構はない、……でもお

つてあげて」

「どこまで?」

「ちや、おいていく」

「構はない、……でもお

つてあげて」

「どこまで?」

「ちや、おいていく」

「構はない、……でもお

つてあげて」

「どこまで?」

「ちや、おいていく」

「構はない、……でもお

つてあげて」

「どこまで?」

最近火災損害は 一年平均九萬余圓

消防隊の努力と完備に ▽漸次減少の傾向△

そろそろ火災の季節に入る
ので平署では目下是が豫防
宣傳法に就いて腐心中であ
るが同署で調査した昭和三
年より

五年迄の 火災件数及
其の損害高は左の如く

件数 損害高
△三年度 一四 八、五七〇圓
△四年度 一五 一、三三〇圓
△五年度 一八 一、三〇〇圓

に及び三ヶ年の損害實に二
八三、〇三五圓の巨額に達
してゐるが就中昨年度にお
ける管内各町村のうち火災

多いのは 平窪、内郷
湯本が各三回、少ないので
は平、磐崎、小名、豊間、高
久、夏井、上下小川、赤井
の各一回また全然火災を出
さぬ町村は玉川、鹿島、江
名、飯野、好間、箕輪、永

新車増加に伴ひ

事故は漸減

▽其筋で防止に腐心△

四日から自動車検査

既報來月四日から一週間平
町八幡小路に行はれる平署
管内の自動車々々検査の際

し從來濱通地方の車体は設
備其他で悪評多く
昨年度の検査の際に

無断で 保安材伐採

石城郡赤井村北茨仙臺炭
礦坑夫吉田市藏(三)渡邊守
(三)の兩名は卅日午後三時
頃赤井村第一共同財産保護

署管内は縣下一の臺数を有
する事として事故は相當多
常に平署及營業者間で事故

防止に 腐心して居る
が本年五月行はれた車体檢
査を見ると受檢車一七五臺

のうち使用期間付を以て合
格された車が九臺再修理の
上合格したのが三〇臺で殘
部百三十六臺は何れも一回

知事より表彰

石城郡内郷村字宮佐藤吉三
郎及び同村字高坂太田成一
の兩名は去月中同村高坂地
内で窃盜の現行犯を發見直

に警官に報告し其力犯人を
逮捕した爲め本日平署へ川
崎知事より兩名の表彰状を
送付されたので近く傳達さ
れると

山間部で

山葵試作

成績は良好

石城郡山間部地方は米麥の
耕地面積極めて少く養蠶林
産に力を入れこれが償ひと
してゐたが昨今の如きはそ

れのみでも思はしくないと
ころから最近擡頭して來た
山葵栽培に目をつけ郡農會
では豫て試作研究を重ねて
ゐた結果頗る良好で目下十
數ヶ町村に亘り實地栽培の
成績は氣候土質共に適し品
質優良なものが出来る見込
がついたので將來の特産物
を目指し大いに奨励指導し
不振農村救済の一策として
期待されてゐる

勇圖遂にむなしく

磐中選手昨夜歸る

本縣代表として晴れの明治
神宮競技大會に出場した磐
中庭球部選手篠原欽司、
鈴木正の兩君は左の戦績を
残して勇圖空しく昨卅日午
後十一時五十八分平署着列
車で歸郡した

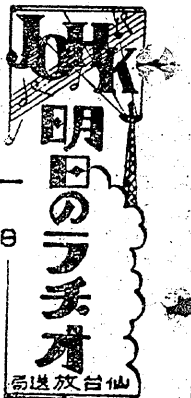
△同第三回戦
橋本(群) 4-1 篠原(磐)
石井(馬) 4-1 鈴木(中)

平リーグ戦

日割決定す

磐陽野球後援會では昨三十
日午後七時からマルトモ樓
上に幹部會を開催

吉田、石川、堀、野崎、
織田、立花、熊、矢野、
高木、坪内、渡邊
の諸氏參集し左の事項を協
議し同十一時散會した
平野球聯盟を組織し在平
磐中、平商、鐵道、遞友
及平俱の五チームは春秋



今晚の部
後六、〇〇(子供の時間)
「兵營生活の一日」
後七、三〇 講演「若し敵
機日本を襲へば」和田盈
後八、〇〇 東おどり「黒
塚」新橋温習會
後八、五〇 ヴァイオリン
と管絃樂「交響詩」中
央アジヤの曠野にて」
ヴァイオリン 獨奏 A・モ
グレフスキ
後九、四〇 時報 全國ニ

明日の部

後九、一〇 餐養料理「牛
肉のつくめ煮」
前九、三〇 子供の時間
一、お話 大沼孝志
合唱 第二高生徒
前一〇、〇〇 講演「我邦
教育の精神」大瀬基太郎
前一〇、〇〇 講演「讀書
万能」市島謙吉
後一、三〇 運動競技「新

明日の部

二回リーグ戦開催の件
なほリーグ戦は左の日割に
て行ふべく決定、磐中平商
兩球場を使用しゲームは九
回コールドゲームを作るの
である

△十一月八日
(磐中) (遞友) (鐵道)
(平商) (遞友) (鐵道)
(平俱) (遞友) (鐵道)
△十一月十五日
(磐中) (遞友) (鐵道)
(平商) (遞友) (鐵道)
(平俱) (遞友) (鐵道)

兒童競技

廿七校參加

あす高月臺にて
石城教育會主催第一回石城
郡兒童競技會は明日午前
九時から高月臺グラウンド
に開催されるが參加校は左
の三十七校である
植田、山田、勿來尋高、

平職業紹介所便り

▲求人部

△農夫一名、住込十圓位
で一ヶ月(高久村農家)
△農夫一名、住込十圓位
で一ヶ月(夏井村農家)
△煎餅賣子、通勤賣上の
一割(平町三丁目某煎餅
店)

▲求職の部

△事務員、五十一才、元
教員(神谷村在住)
△電機職工、十七才通勤
希望(平町仲間町居住)
△店員、廿才、通勤(内
郷村元入山炭礦販賣部員
△雜貨店員、十八才、住
込(神谷村四倉實踐校在
學生)

人野球試合」
後〇、四〇 ラデオトキ
「カラマツゾフの兄弟」
山本安英外
後一、三五 現代映畫劇
「青春闘會」川崎弘子外
後二、三五 時代映畫劇
「新釋辨天小僧」澤田清外
後六、〇〇 物語「美はし
き旗手」酒井真人
後六、三〇 修養講座「慈
悲の教に就て」大宮智榮
後七、三〇 漫談「スポー
ツ秋の陣」井口靜波
後八、一〇 三曲「四季の
眺め」筆野坂擊壽外「み
だれ」海保良壽外
後八、四〇 歌澤「木曾」唄
歌澤寅晴、菊宣「三味線歌
澤寅佐久
後九、〇〇 常磐津「お染
久松」常磐津若大夫外

小説 七五郎

(七十四)

渡邊 默禪 作
布施平八郎 畫

【載轉禁】

狼の足跡 (4)
『斯うしていろ〜と確な證據が出たからには、是ばかりは誰が何と言つたつて動かすことのできぬ事實でげす。いや呆れつけた太え野郎で、獅子身中の蟲には全くあの川島のことございませうやうよ。』

千代子は黙つて黙頭いたいつもならば少くも五六人の若い店員たちが店に居残つて、碁を打つたり骨牌を闘はしたり、夜更までも賑かに笑ひ興じてゐるのであるが、今宵ばかりは何處にどうぐれて了つたのやら一人も姿を見せなかつた。で、三階建の大きな洋館は療寺のやうにひっそり閑として、をり〜唸りをあげて街を走りゆく自動車が事務室の關の中にひとり勤勉に動いてゐる柱時計の振子の音を攫つてゆく。

それすら夜深の寂しさを孕む沈黙の母であつた。

と、僅かに一つの灯でおぼろげに足下を見られるだけの微暗い廊下先きに淡い人影がさした。それが上草履の音も立てず忍びやかに重役室の戸の外へ来てから幽霊のやうにのつそりと立すくんだ。

銀杏返しに結つた頭のお太鼓に帯を背負ひあげた女の影法師が、三寸ばかり開いてゐた扉の上に焦く映つた。

『どうも彼奴、變だ〜と思つてゐたら飛んでもねえ狸でぬやあがつた』

室外に人の立つてゐること



とを知らなかつた清作は激しい調子で言ひ續けた。

『私の方とは直接關係のない役目でけすから、店内の様子は深く知りやあしませんけれども、ちよい〜妙なことが目についたり耳に入つたりするから、實は迅

から注意してゐたんですよ店の小僧の話ですが、何でも小松川邊に何千坪ツてえ大きな地所を買ひ込んで追つては住宅を五六軒軒ばかり押つ立て、貸附けるんだとかいつてましたせ。

『あらそんなことが有るの家がこんなになつてゐるのに。妙だわね。』

千代子は美しい眉をよせ

『いゝえ、些とも、知らな

いわ。そんなことは……』

『一昨日の晩でしたが、木挽町の待合から迎ひに來いッて電話が懸つて來ましたから、自動車を持つて行つて見ますと、一時間も

待たせあがつてから出て來たんです。へべれけに酔つばらつてね。藝者が二三人玄關までお見送りさ。お店がつぶれるかつぶれないかつてえ騒ぎの那裡に、藝者買でもないぢやござせんか

いや、それだけならまだ可いとして、後から出て來たのが。ほら、今日差押へにやつて來やがつた銀行の何とかつてえ野郎でげす。全く驚いたも驚いたも口が開けませんでした。そいつが川島の肩を叩いて、おい、しつかり頼むぜとニヤ〜笑ひをすると、よし〜大丈夫だと云ふ返辭でお別れの握手さ、明日にも十文字の店へ押しかけて電の灰までも押へてやらうてえ恐ろしえ外道と一所に待合へ浸込んでゐるのも變なら、第一しつかり頼むも訝しうござすよ。

看護婦急派の求めに應じます

平町南町 平看護婦會 電話三〇七番

一冊の代金で御希望通りな五冊の雑誌が自由に讀める

川崎巡回文庫 電六三〇番 (申込次第規則書進呈)

正確な時計

お客様本位の……

好適の眼鏡

平一常盤屋時計店

三井の 商品切手

八四番 三二番 平三電

種々體弱 寒暖計 關内藥局 電話三〇番

靈効散

寒い〜北海道で出来る靈藥 胃腸病藥の王座を占むる純漢法藥 松前公御典醫之秘法 家傳

胃腸病で苦しむ方、心臓、腦病、痔疾の方は是非御試し下さい、見本藥は御希望の方に進呈致しますから御遠慮御申出下さい、本藥は有り觸れた胃腸藥の様に一時抑へや習慣性になるものでなく確かに根治の目的を達します、効き目が効能書以上でアイフの三分の一安價で効はアイフ以上値段が安いものですから實際大評判の靈藥です、本藥は責任藥に付き無効の時は返金致します(定價は八日分五十錢です)

靈効散 平町古鍛冶町(電話四四番)

地方代理店 阿康藥舖

お醤油は……ヤマフル

醬油味噌 たひら 正宗 鯉節 食料品

鹽屋 山崎合名會社

福島縣 平町 電話(營業部一〇番) (醸造工場二七番)

御用命印刷物の總印刷

市原醫院 平町田町 電話一四番

常警日印刷株式會社 電話三六〇番